

# ホワイトペーパーシリーズ:

Windows Storage Server 2012/2012 R2 サポート終了(EoS)への緊急対応 ストレージ移行サービスによる 最新 LAN DISK Z への移行ガイド

2023年9月1日

# 内容

1	概要	Ę	2
	1.1	このホワイトペーパーについて	2
	1.2	NASの OS サポート終了、すぐに移行が必要な理由	2
	1.3	Windows Server IoT ベースの後継製品に移行するメリット	3
2	スト	ヽレージ移行サービスを使用したドメイン環境の移行	6
	2.1	ストレージ移行サービスとは	6
	2.2	システム要件	7
	2.3	実施環境	8
	2.4	Windows Admin Center を準備する	8
	2.5	オーケストレーターサーバーを準備する1	1
	2.6	移行元と移行先の準備1	4
	2.7	移行ジョブを作成して実行する1	5
	2.8	カットオーバーして移行先サーバーへの移行を完了する	6

本文書は、株式会社アイ・オー・データ機器(以下、「アイ・オー・データ」とします)が、アイ・オー・デ ータの特定の商品に関する機能・性能や技術についての説明を記述した参考資料となります。当該商品の利 用という目的の範囲内で自由に使用、複製をしていただけますが、アイ・オー・データの事前の書面による 承諾なしに、改変、掲示、転載等の行為は禁止されます。また、あくまで参考資料として提供いたしますの で、内容については一切保証を致しかねます。アイ・オー・データサポートセンターでは内容に関するお問 い合わせは承っておりません。以下の内容をご了承いただいた場合のみご利用ください。(1)アイ・オー・ データは、本文書によりいかなる権利の移転もしくはライセンスの許諾、またはいかなる保証を与えるもの ではありません。(2)アイ・オー・データは、本文書について、有用性、正確性、特定目的への適合性等のい かなる保証をするものではありません。(3)アイ・オー・データは、本文書を利用したこと、または利用しな かったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。(4)アイ・オー・データ は、本文書の内容を随時、断りなく更新、修正、変更、削除することがあります。最新の商品情報について は、https://www.iodata.jp/をご覧ください。

# 1 概要

# 1.1 このホワイトペーパーについて

このホワイトペーパーに示すガイドは、Windows Storage Server 2012 または 2012 R2 を搭載する LAN DISK Z シリーズの利用者向けに、後継 OS である Windows Server IoT 2019 for Storage または Windows Server IoT 2022 for Storage を搭載する LAN DISK Z シリーズの NAS デバイスに移行する手順を説明し ます。

この移行ガイドでは、Windows Server 2019 以降が標準で備える「ストレージ移行サービス(記憶域の移行サービス、Storage Migration Service)」を使用して NAS デバイス間のデータおよび設定を移行します。

ストレージ移行サービス、ワークグループ環境と Active Directory ドメイン環境での移行をサポートして いますが、中・大規模な Active Directory ドメイン環境における移行を想定しています。

ストレージ移行サービスを使用した移行では、データだけでなく、コンピューター名、IP アドレス、ローカ ルユーザーやグループ、共有設定、アクセス制御リスト(ACL)を含むセキュリティ記述子やその他のファ イル属性も移行できるため、新しい NAS デバイスに切り替え後も、切り替え前と同じ UNC 名やネットワー クドライブマッピングを使用した、ユーザーやアプリケーションによるファイルアクセスを継続することが できます。切り替え後も移行元の NAS デバイスからデータが削除されることはないため、データを失う心 配もありません。

#### 1.2 NASのOSサポート終了、すぐに移行が必要な理由

Windows Storage Server 2012/2012 R2 を搭載した LAN DISK Z シリーズには、10 年(メインストリ ーム 5 年+延長さサポート 5 年)のマイクロソフトによる OS の製品サポートが提供されてきましたが、そ のサポートは Windows Server 2012/2012 R2 と同じく 2023 年 10 月 10 日に終了します。

OS の製品サポートが終了した後も NAS デバイスとして使い続けることはできますが、サポートが終了すると OS のセキュリティ更新プログラムが提供されなくなり、マルウェアへの感染によるデータ損失(データ破壊やランサムウェアによる暗号化と復号化のための身代金の要求など)や情報漏えい、マルウェアの感染拡大(NAS デバイスの共有を介して)といったセキュリティリスクが増大します。

ドライバーやアプリケーションなどの周辺ソフトウェアのサポートも、OS のサポート終了とともに停止へ と向かうことになります。また、ハードウェアの保証切れによりハードウェア障害への対応が困難になりま す(LAN DISK Z シリーズは標準5年保証)。これらの問題に対応できなくなると、ビジネスの継続に著し い影響を与える可能性があります。

Windows Storage Server 2012/2012 R2 向けに ESU の提供なし

マイクロソフトは Windows Server 2012/2012 R2、および SQL Server 2012 に対して、製品サポ ート終了後も最大 3 年間、セキュリティ更新プログラムを受け取ることができる「拡張セキュリティ更 新プログラム(Extended Security Update、ESU)」を有料(オンプレミスや Azure 以外のホスティ ング環境上のインスタンス)または無料(Azure 上のインスタンス)で提供します。

ESU を利用すると、すぐに後継バージョンや代替ソリューション(クラウドベースのサービスなど)に 移行することができない場合に、セキュリティを確保しながら、移行のための時間的な猶予を得ること ができます。ただし、有料(オンプレミスや Azure 以外のホスティング環境上のインスタンス)の ESU は、エンタープライズ契約(EA)の下でソフトウェアアシュアランス(SA)を契約している顧客に対 して販売されます。OEM ライセンスである Windows Storage Server に対して ESU の提供はありま せん。そのため、サポート終了まで、あるいはサポート終了後、速やかに後継製品や代替ソリューショ ンに移行する必要があります。

SQL Server および Windows Server の拡張セキュリティ更新プログラム () https://www.microsoft.com/ja-jp/windows-server/extended-security-updates

#### 1.3 Windows Server IoT ベースの後継製品に移行するメリット

Windows Server 2012/2012 R2 ベースのアプリケーションサーバーやデータベース、その他のさまざま な役割サービスを実行するサーバーは、オンプレミスやクラウド(PaaS/SaaS)、ハイブリッド環境など、 移行先の選択肢がさまざまであり、移行方法も選択した移行先に応じてさまざまです。これに対して、 Windows Storage Server 2012/2012 R2 搭載の LAN DISK Z シリーズの NAS デバイスはファイルサー バーという単機能サーバーであり、後継 OS である Windows Server IoT 2019 または 2022 for Storage 搭載の同シリーズの後継製品に比較的簡単に、データだけでなくその設定を含めて、安全かつ確実に移行す ることができます。

適切な移行ツールを使用することで、UNCパスやアクセス制御リスト(ACL)を維持したまま移行できるだけでなく、OSが後継バージョンになることでパフォーマンス向上やセキュリティの強化など、さまざまなメリットを得られます。

例えば、Windows Server IoT 2019/2022 for Storage は、最新の「SMB(サーバーメッセージブロック) 3.1.1」をサポートしており<sup>\*1</sup>、Windows 10/11 クライアントデバイスと高い親和性があります。SMB 3.1.1 では、SMB 暗号化の高速化や機能強化(暗号化アルゴリズムの追加)が行われている他、Windows 10 お よび Windows Server 2016 以降のバージョンでもいくつかの新機能が追加されています。

Windows Server の SMB 3 プロトコルを使用したファイル共有の概要

 ● https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/file-server/file-server-smb-overview

\*1 Windows Storage Server 2012 は SMB 3.0、Windows Storage Server 2012 R2 は SMB 3.0.2 が最上位の SMB バージョン です。

また、ウイルス対策およびネットワーク検査サービスとして Microsoft Defender ウイルス対策 (Microsoft Defender Antivirus) を OS に標準搭載しており、サードパーティのウイルス対策製品を導入しなくても、マルウェアから保護されます (画面 1-1)。有料の Microsoft Defender for Cloud (Microsoft Defender for Servers) を導入すると、クラウド (Azure) ベースの統合管理でセキュリティ体制をさらに強化できます。 Microsoft Defender for Cloud は、Windows Admin Center に統合された Azure ハイブリッドサービスの1つでもあります。



画面 1-1 サードパーティのウイルス対策製品が導入されていない場合、Microsoft Defender ウイルス対 策が既定で有効になる

さらに、Windows Server およびクラスターの管理アプリである「Windows Admin Center (WAC)」(無料)を導入することで、モダンブラウザー (Microsoft Edge や Google Chrome)を使用して、NAS デバ イスをリモート管理することができます。Windows Storage Server や Windows Server IoT for Storage は NAS 専用の管理ツールを提供せず、サーバーマネージャーや Microsoft 管理コンソール (MMC) スナッ プインなど Windows Server 標準の GUI 管理ツールを使用して管理しますが、Windows Admin Center を使用すると、GUI 管理ツールを使い分ける必要がなく、リモートデスクトップ接続や PowerShell リモー ティングを含む、さまざまな管理操作をモダンブラウザーだけで実行することができます (画面 1-2)。

なお、Windows Admin Center は Windows Server 2012/2012 R2(Windows Storage Server を含む) の管理もサポートしていますが(インストールは非サポート)、WMF 5.1 の追加インストールが必要な上に、 管理機能の一部が制限されます。Windows Server IoT for Storage は Windows Admin Center による管 理のために追加のコンポーネントを必要としません。Windows Admin Center による LAN DISK Z シリー ズの管理については、以下のホワイトペーパーでも説明しています。

Windows Server IoT 2019 for Storage で構築する企業向け最新ファイルサーバー(全4編)/ 3.集中 管理編

https://www.iodata.jp/biz/whitepaper/index.htm#IoT2019-04



画面 1-2 Windows Admin Center によるリモート管理に標準対応

# 2 ストレージ移行サービスを使用したドメイン環境の移行

中・大規模なドメイン環境において、Windows Server 2019 以降のストレージ移行サービスを使用した NAS デバイスの移行手順について説明します。

## 2.1 ストレージ移行サービスとは

ストレージ移行サービス (記憶域の移行サービス、Storage Migration Service) は、Windows Server 2019 以降の Windows Server でサポートされる新しいサーバーの機能です。このサービスを使用すると、ネッ トワーク上の SMB/CIFS 共有にあるデータを、オンプレミスの Windows Server ベースのファイルサーバ ー (物理サーバーまたは仮想マシン) または Azure 仮想マシン (Azure VM) に、SMB プロトコルを使用し てデータ転送することができ、ファイルサーバーの移行やクラウドへの移行を実現します。

ストレージ移行サービスは、コンピューター名、ドメイン参加設定、IP アドレス、共有設定(SMB 共有の すべてのフラグと設定)、ローカルユーザーとグループ、SMB 共有および NTFS ファイルシステムのアクセ ス制御リスト(ACL)を移行先サーバーに転送するオプションも用意されています。これにより、ユーザー やアプリケーションは UNC パスやネットワークドライブマッピングを変更することなく、移行先サーバー にアクセスできるようになります。

ストレージ移行サービスは PowerShell のモジュール (StorageMigrationService モジュール) として実装 されていますが、Windows Admin Center の「記憶域の移行サービス」拡張機能(既定でインストールさ れます)を使用すると、ウィザードベースの GUI を使用してジョブを作成し、実行状態を確認することが きます。また、複数の移行元と移行先のマッピングを追加して、一括実行することもできます。

# /!\\_\_\_\_ ストレージ移行サービスの制限

ストレージ移行サービスを使用したファイルサーバーの移行では、以下の制限があります。

- ローカルユーザーとグループの移行はサポートされますが、移行されたローカルユーザーのアカ ウントは移行先で無効にされ、複雑でランダムな127文字のパスワードが割り当てられます。こ れは、移行元で旧アカウントのパスワードを忘れてしまっていた場合や、旧アカウントに簡単な (脆弱な)パスワードを使用していた場合、移行先でセキュリティ関連の問題が引き継がれる事態 を回避するのに役立つ仕様です。ローカルユーザーのアカウントを引き続き使用するには、移行後 にアカウントを有効にして新しいパスワードを割り当てる必要があります。なお、組み込みのユー ザーおよびグループは、ソースと宛先で同じ名前が使用され、再利用されます(ランダムなパスワ ードの設定やアカウントの無効化は行われません)。
- 複数のサーバーを1つのサーバーに統合することはできません。ただし、スタントアロンサーバーを、1つのクラスター上の複数のファイルサーバーリソースに移行することは可能です。
- ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) によって作成されたファイルの以前のバージョンを移 行することはできません。そのファイルの最新バージョンのみが移行されます。

 ストレージ移行サービスは、移行元デバイスの NTFS ボリュームから移行先デバイスの NTFS ボ リュームへの移行を、暗号化ファイルシステム(EFS、ただしドメインアカウントによる暗号化の み)や NTFS 圧縮の状態を含めてサポートしますが、NTFS から ReFS への異なるファイルシステ ム間の移行はできません。

# 2.2 システム要件

Active Directory ドメイン環境でストレージ移行サービスを利用する場合のシステム要件を以下に示します。ワークグループ環境の場合は、Active Directory ドメイン要件は不要です。

- Active Directory ドメイン ··· Active Directory ドメイン環境でストレージ移行サービスを利用す る場合、オーケストレーターサーバー、移行元サーバー、移行先サーバー、Windows Admin Center の動作する Windows 10/11 デバイスまたは Windows Server は、すべて同じドメインに参加してい る必要があります。ストレージ移行サービスでは、異なるドメイン間の移行はサポートされません。
- オーケストレーターサーバー …Windows Server 2019 または Windows Server 2022 (Server Core またはデスクトップエクスペリエンス)の物理サーバーまたは仮想マシンが1台必要です。オーケストレーターサーバーにはストレージ移行サービスがインストールされ、移行ジョブを制御します。これには、少なくとも2コアの CPUと2GBのメモリを搭載していることが推奨されます。Windows Server 2019 を使用する場合、累積的な更新プログラムによってストレージ移行サービスに変更や機能強化が行われているため、最新の累積更新プログラムをインストールしてください(少なくとも2021年4月リリースのOSビルド 17763.1911以降を実行している必要があります)。
- 移行元サーバー ・・・ Windows Server 2003 以降の Windoows Server のサーバーとクラスター、 Samba 3.6/4.2/4.3/4.7/4.8 を実行する Linux サーバー、NetApp ONTAP 9 を実行する NetApp CIFS サーバーがサポートされます。Windows Storage Server 2012/2012 R2 は Windows Server 2012/2012 R2 と同等であり、移行元サーバーとしてサポートされます。
- 移行先サーバー・・・・Windows Server 2012 R2 以降の Windows Server (移行先側のストレージ移行サービスプロキシによる高速転送を利用できる Windows Server 2019 以降を推奨)のサーバーとクラスターがサポートされます。Windows Server IoT 2019/2022 for Storage は Windows Server 2019/2022 と同等であり、移行先サーバーとしてサポートされます。移行先サーバーは、少なくとも2コアの CPU と 2GB のメモリを搭載していることが推奨されます。
- 最新の Windows Admin Center ・・・ Windows 10 または Windows 11 デバイスまたは Windows Server 2016 (デスクトップエクスペリエンスまたは Server Core インストール) 以降にインストールされた Windows Admin Center が必要です。ストレージ移行サービスは、Windows Admin Center バージョン 2103 以降でサポートされます。このガイド制作時点の最新バージョンは Windows Admin Center バージョン 2306 です (Windows Admin Center の新バージョンがリリースされると、その日から 30 日後に旧バージョンはサポートされなくなることに注意してください)。Windows Admin Center のドメインコントローラーへのインストールはサポートされませんが、オーケストレーターサーバーへのインストールは可能です。

# 2.3 実施環境

ストレージ移行サービスを利用した NAS デバイス間のデータと設定の移行は、すべてオーケストレーター サーバーに接続した Windows Admin Center から実行します。移行ジョブを作成して、移行元サーバーか らインベントリを収集し、移行先サーバーにデータを転送して、最後に移行先サーバーにカットオーバー(一 括移行)して新旧 NAS デバイスを切り替えます(図 2-1)。



図 2-1 ストレージ移行サービスによる NAS デバイス間のデータと設定の移行手順のイメージ

# 2.4 Windows Admin Center を準備する

Active Directory ドメインのメンバーとなっている Windows 10/11 デバイスまたは Windows Server 2016 (デスクトップエクスペリエンスまたは Server Core インストール) 以降に Windows Admin Center をインストールします。ストレージ移行サービスのためには、移行元および移行先の NAS デバイスとは別 のシステムに Windows Admin Center の管理環境を用意する必要があります。

Window Admin Center | Microsoft Evaluation Center

https://www.microsoft.com/ja-jp/evalcenter/evaluate-windows-admin-center

Windows Admin Center の管理環境がまだない場合は、以下の URL から Windows Admin Center の最新 バージョンの MSI (Windows インストーラーパッケージ)形式のインストーラーをダウンロードして実行 し、ローカルクライアントモード (Windows 10/11 の場合)またはゲートウェイサーバーモード (Windows Server の場合) でインストールしてください (画面 2-1)。インストールの際には、すべて既定の設定を受 け入れ、自己署名証明書 (または Active Directory 証明書サービスなどの証明機関で発行された有効な TLS 証明書)を使用してセットアップします。 ローカルクライアントモードの場合、Windows 10/11のスタートメニューから「Windows Admin Center」 を起動し、Microsoft Edge で https://localhost:6516 を開きます。ゲートウェイサーバーモードの場合 は、ローカルまたはリモートの Microsoft Edge から https://<ゲートウェイサーバーの FQDN>(:443) にアクセスします。ゲートウェイサーバーに接続する際には、ドメイン管理者の資格情報を入力してくださ い(画面 2-2)。ローカルクライアントモードの場合、接続時に資格情報の入力は要求されません。



画面 2-1 NAS デバイスやドメインコントローラーとは別の Windows 10/11 デバイスまたは Windows Server 2016 以降に Windows Admin Center の最新バージョンをインストールする

🕒

画面 2-2 ドメイン管理者の資格情報(ドメイン名¥Administrator など)を入力してゲートウェイサーバ ーに接続する

Windows Admin Center の管理環境を用意したら、「設定(③) | 拡張」を開き、拡張機能の更新が利用 可能であばすべてインストールしてください(画面 2-3)。特に、ストレージ移行サービスのためには、「記 憶域の移行サービス」拡張機能が必要です。この拡張機能は Windows Admin Center に既定でインストー ルされますが、最新バージョンがインストールされていること(利用可能な更新がない状態)を確認してく ださい。

🔲 🐁 設定 - Windows Admin Center 🗙 💽 1	Microsoft Edge へようこそ	$\times   +$			-	D	×
← C	ttings/extension/installed	d A∥	aa 🖒 🗘	ć= @	☜ 🔮	[	D
Windows Admin Center   設定 ~		Hicrosof	t		≻_Q	ŵ	?
検索の設定	拡張機能						
ユーザー ▲ アカウント	Windows Admin Cent Center のこのインスタ す。	er は拡張機能を タンスを使用し <sup>-</sup>	ビインストールした後 ているユーザーに一H	に再起動し、\ 寺的に影響が出	Windows Adr る可能性がる	min ありま	
🍄 言語/地域	拡張機能を自動的に更新	する ()	<b>へ</b> オン				
🏄 個人用設定							
↓ 提案	利用可能な孤張	戦能(イン人	トール済の孤張機能	ノイード			
開発	📋 アンインスト	ール <sup>(</sup> ) 更新	б				
論 パフォーマンス プロファイル	45 個の項目	検索	Q				
☆ 詳細設定	名前个	バージョン	作成者	状態			
	記憶域	2.42.0	Microsoft	13 25	ンストール済	^	
	記憶域レプリカ	2.33.0	Microsoft	1. 1)	ンストール済		
■ アクセス							

画面 2-3 利用可能な拡張機能の更新があれば、すべてインストールしておく

# 2.5 オーケストレーターサーバーを準備する

ドメインメンバーとして、オーケストレーターサーバーのシステム要件を満たすサーバーが存在する場合は、 そのサーバーをオーケストレーターサーバーとして利用できます。利用可能なサーバーがない場合は、物理 サーバーまたは仮想マシンとして新規に導入する必要があります。利用可能な Windows Server のライセ ンスがない場合は、ストレージ移行サービスを利用して移行が完了するまで、Windows Server 2022 Evaluation(180 日評価版)を一時的に利用することもできます。

Windows Server 2022 | Microsoft Evaluation Center

https://www.microsoft.com/ja-jp/evalcenter/evaluate-windows-server-2022

Windows Server 2019 評価版と Essentials の既知の問題 オーケストレーターサーバーとして、Windows Server 2019 評価版および Essentials エディション は使用できません。Windows Server 2019 評価版および Essentials エディションにはストレージ移 行サービスおよびストレージ移行サービスプロキシのサーバーの機能が含まれていないため、 Windows Admin Center で管理される Windows Server 2019 評価版の「サーバーマネージャー」に 「記憶域の移行サービス」 ツールは表示されず、オーケストレーターサーバーとして機能させることが できません。これは Windows Server 2019 評価版および Essentials エディションのメディアの既知 の問題であり、Windows Server 2019 製品版の他のエディションおよび Windows Server 2022 評 価版/製品版には影響しません。 ≥ 管理者: Windows PowerShell S C:¥> WMIC OS Get Caption aption Microsoft Windows Server 2019 Datacenter Evaluation C:¥> Get-WindowsFeature SMS\* C:¥> ∑ 管理者: C:¥Windows¥System32¥WindowsPowerShell¥v1.0¥powershell.exe PS C:¥> WMIC OS Get Caption aption Microsoft Windows Server 2019 Standard PS C:¥> Get-Windowsfeature SMS\* Display Name Name Install State Storage Migration Service Storage Migration Service Proxy SMS Available SMS-Proxy Available 画面 2-4 Windows Server 2019 評価版および Essentials エディションにはストレージ移行サービ スの機能が含まれないという既知の問題がある

オーケストレーターサーバー用のサーバーの準備ができたら、Windows Admin Center に管理対象のサー バーとして追加します(画面 2-5)。サーバーを追加する際に資格情報の入力が要求された場合は、ドメイ ン管理者の資格情報を入力してください。

□ ■ サーバーマネージャー - Windows Adn × +	- 0 X
← C ↔ https://wac.ad.example.jp/servermanager/connect	tions 🖉 A <sup>N</sup> að 🟠 🛈 🗲 🗃 🎕 😰 … 🌔
Windows Admin Center   サーパー マネージャー ~	👫 Microsoft 🛛 🚬 🗘 🕸 ?
十 追加	+ タグの追加
□ 名前 个 ■ <u>wac.ad.example.jp.[ゲートウェイ]</u>	1つ追加する 一覧のインポート Active Directory の検索
	サーバー名*
	orcsv.ad.example.jp
	⊘ 'orcsv.ad.example.jp' が検出されました
	追加 キャンセル

画面 2-5 「+追加」をクリックして、オーケストレーターサーバーにする Windows Server 2019 または Windows Server 2022 のサーバーを管理対象として追加する

オーケストレーターサーバー用のサーバーを追加したら、そのサーバーに接続し、「ツール | 記憶域の移行 サービス」を開きます。ここで「インストール」をクリックして、オーケストレーターサーバーにストレー ジ移行サービスのサーバーの機能をインストールします(画面 2-6)。

Windows Admin Center   サーバー マネージャー	V Microsoft	≻	Q	©	?
orcsv.ad.example.jp					
ツール <					
ツールの検索 🔎					
🦰 ファイル & ファイル共有	ストレージ移行サービス				
= プロセス					
🛞 リモート デスクトップ					
📑 レジストリ	-1-				
& ローカル ユーザーとグループ	アプリやユーザーによる変更を必要とせずに、サーバーとファイ または Windows Server 2022 に移行します。	(ル共有	iを Azu	ire	
🔲 記憶域	ストレージ移行サービスの概要を取得します □				
🔩 記憶域の移行サービス					
■■ 記憶域レプリカ	インストール				
🗔 更新プログラム	$\nabla$				

画面 2-6 「ツール | 記憶域の移行サービス」の「インストール」をクリックする

ストレージ移行サービスの機能のインストールが完了すると、ストレージ移行サービスを使用した移行手順 の概要が表示されるので、確認して「閉じる」をクリックします(画面 2-7)。



画面 2-7 ストレージ移行サービスの機能のインストールが完了すると、ストレージ移行サービスの手順の 概要が表示される

最後に、Windows Admin Center の「ファイアウォール」ツールを開き、「着信規則」で以下のファイアウ ォール規則がすべて(またはドメイン)プロファイルで有効になっていることを確認します。上の2つスト レージ移行サービスのインストールによって既定で有効化されます(画面 2-8)。最後の規則は、通常、手動 で有効化する必要があります(画面 2-9)。

- SMS(任意-受信)
- SMS プロキシ(任意-受信)
- ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)

Windo	ws Admin Center   サーバー マネージャー 〜				Hicro	soft			≻_	Û	٢	?
orcs	v.ad.example.jp											
>	ファイアウォール											
Q	概要 着信規則 発信規則											
-	┼ 新規 ① 有効 ④ 無効にする 値	〕削除			2個の項		U :	SMS			Q	]
_	名前		作	グル	状態	プ	プ	プロトコ		カル	υŧ-	- h
<u>.</u>	SMS プロキシ (任意-受信)	~	⁄ 許可	ストレ	有効	すべて	%Sys.	Any	Any		Any	
8	SMS (任意-受信)	$\checkmark$	⁄許可	ストレ	有効	すべて	%Sys.	Any	Any		Any	
==2												

画面 2-8 ストレージ移行サービスのファイアウォール規則が有効になっていることを確認する

Windo	Windows Admin Center   サーバー マネージャー ~						rosoft			≻	P	٢	?
orcs	v.ad.example.jp	)				0	ファイアウォ	ォール規則	則を有効にしてい	います。		×	<
>	ファイアウォール	L				(	ファイアウォ (SMB 受信)" prcsv.ad.exa	ォール規則 が正常に mple.jp	則 "ファイルとコ :有効になりまし	プリンタ た。	ーの共有 9:	51:55	
Q	概要 着信規則	発信規則											
	十新規 ⑦ 有効	④ 無効にする	前 削除			2個の	項目	U 🗆	ファイルとプ	リンタ	·—	Q	
	名前 个 🕚			操作	グル	状態	プ	プ	プロトコ	0-7	יייענל	IJE-	h
<u>.</u> 0	ファイルとプリンターの共	ț有 (SMB 受信)		✓ 許可	ファイ	有効	すべて	Syst	ТСР	445		Any	
$\otimes$	ファイルとプリンターの共	t有 (SMB-QUIC 受信)		✓ 許可	QUIC	無効	すべて	Syst	UDP	443		Any	

画面 2-9 「ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)」を有効にする

以上で、オーケストレーターサーバーの準備ができました。

## 2.6 移行元と移行先の準備

移行元と移行先の NAS デバイスでは、「受信の規則」で以下のファイアウォール規則がすべて(またはドメ イン)プロファイルで有効になっている必要があります。各 NAS デバイスにリモートデスクトップ接続し て、「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」(wf.msc)を開き、確認して、無 効になっている場合は有効にしてください(画面 2-10)。Windows Admin Center に NAS デバイスを管 理対象として登録済みであれば、Windows Admin Center の「ファイアウォール」ツールを使用すること もできます。

- ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信)
- Netlogon サービス (NP 受信)
- Windows Management Instrumentation (DCOM 受信)
- Windows Management Instrumentation (WMI 受信)

🔗 セキュリティが強化され	1た Windows Defender ファイアウォール					- 0	×
ファイル( <u>F</u> ) 操作( <u>A</u> )	表示( <u>V</u> ) ヘルプ( <u>H</u> )						
🗢 🄿 🖄 📰 🗟							
🔗 ローカル コンピューター	受信の規則					操作	
受信の規則	名前	グループ	プロファイル	有効	損 ^	受信の規則	<u>^</u>
■ 医信の規則 ■ 接続ヤキュリティの	🔮 ファイル サーバー リモート管理 (DCOM 受信)	ファイル サーバー リモート管理	すべて	はい	諍	🚉 新しい規則	
> 🔜 監視	🥑 ファイル サーバー リモート管理 (SMB 受信)	ファイル サーバー リモート管理	すべて	はい	1A	▼ プロファイルでフィルター	•
	♥ ファイル サーバー リモート管理 (WMI 受信)	ファイル サーバー リモート管理	すべて	はい	14 	▼ 状態でフィルター	
	♥ ファイル レフリケーション (RPC)  ♥ ファイル レプリケーション (RPC-FPMAP)	ファイル レフリクーション ファイル レプリケーション	すべて	はい	81 54	▼ グループでフィルター	
	☑ ファイルとプリンターの共有 (LLMNR UDP 受信)	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	許		
	🔮 ファイルとプリンターの共有 (NB セッション受信)	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	<b>1</b> 4		-
		ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	1A		
	✓ ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)     ✓ ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)     ✓ ファイルとプリンターの共有 (NB 名受信)     ✓ マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・マーク・	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	14 	■ 一覧のエクスホート	
	SMB 受信) ファイルとプリンターの共有 (SMB 受信) ファイルとプリンターの共有 (Speeler Service - P	ファイルとフリンターの共有	すべて	(40)	21 74		
	◎ ファイルとプリンターの共有 (ココー要求 - ICMPv	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	割	ファイルとプリンターの共有 (	•
	Ø ファイルとプリンターの共有 (エコー要求 - ICMPv	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	詩	<ul> <li>規則の無効化</li> </ul>	
	🔮 ファイルとプリンターの共有 (スプーラー サービス - R	ファイルとプリンターの共有	すべて	はい	詩 🗸	🎸 切り取り	
< >	<				>	Des mar	~

画面 2-10 移行元と移行先の両方で、必要なファイアウォールの例外が有効になっていることを確認する

# 2.7 移行ジョブを作成して実行する

「記憶域移行サービス」ツールが示す移行手順の概要(前出の画面 2-7)が示すように、ストレージ移行サ ービスは、次の 3 つのステップでデータと設定を移行元から移行先に転送します。

**ステップ 1 ジョブの作成と移行元からのインベントリ収集(フェーズ:インベントリ)** ··· 移行ジョブを 作成し、移行元デバイスのデータと構成の情報を収集します。

**ステップ 2 移行元から移行先へのデータ転送(フェーズ:転送)** ・・・ 移行元デバイスのボリュームと移 行先デバイスのボリュームをマップし、データ転送を開始します。

**ステップ 3 新しいデバイスへのカットオーバー(フェーズ:一括移行)** ・・・ 移行元から移行先のデバイス へのカットオーバーを実施し、IP アドレスとコンピューター名を新しいデバイスに移行します。

移行の手順で示す移行元および移行先デバイスの設定は、以下の表のとおりです。

項目	移行元デバイス	移行先デバイス
OS	Windows Storage Server 2012 R2	Windows Server 2019 IoT for Storage
コンピューター名→ カットオーバー後	LANDISKZ $\rightarrow$ LANDISKZ-OLD	LANDISK-NEW $\rightarrow$ LANDISKZ
ドメイン	ad.excample.jp	ad.excample.jp
IP アドレス→カット オーバー後	192.168.10.203 → DHCP	192.168.10.204 → 192.168.10.203
共有	SMBShare	
パス	D:¥Share¥SMBShare	

表 3-1 移行元と移行先の環境および設定

以下の手順に従って、ステップ1を実施します。

- 1. Windows Admin Center の「サーバーマネージャー」でオーケストレーターサーバーにドメイン管理 者の資格情報で接続します。
- 2. 「記憶域の移行サービス」ツールを開き、「+新しいジョブ」をクリックします(画面 2-11)。

Windows Admin Center   サーバーマネージャー v Hicrosoft									
orcsv.ad.example.jp									
ツール	<		十 新しいジョブ	一 選択	したものを削除	0個	の項目 🖒	検索	
ツールの検索	Q		口名前个 🖤	状態	フェーズ	前回の実行	作成日時	作成者	
■ 記憶域		•	レコードが見つか	りません					
€』記憶域の移行サー ビス									
■■ 記憶域レプリカ									

画面 2-11 Windows Admin Center でオーケストレーターサーバーに接続し、「記憶域の移行サービス」 ツールを開き、「+新しいジョブ」をクリックする

3. 「新しいジョブ」パネルが開くので、「ジョブ名」に半角英数字のみを使用して分かりやすいジョブ名を 入力し、「移行元デバイス」として「Windows サーバーとクラスター」を選択します。Windows Server ベースの NAS デバイスは、ストレージ移行サービスでは「Windows サーバー」と同じように扱うこと ができます(画面 2-12)。

Windo	ows Admin Center   サーバー マネージャー 〜	Hicrosoft	≻	Q	٢	?
orc	sv.ad.example.jp					
> م	+ 新しいジョブ ─ 選択したものを削除 □ 名前↑ 状態 フェーズ	新しいジョブ <sup>ジョブ名</sup> ①				^
24	レコードが見つかりません	MigrateNAStoNASJob 移行元デバイス				
- L		<ul> <li>● Windows サーバーとクラスター</li> <li>○ Linux サーバー</li> </ul>				
		○ NetApp FA 配列				
<b>F</b>		OK キャンセル				Ţ

画面 2-12 新しいジョブに分かりやすい名前(英数字のみ使用可)を付けて「Windows サーバーとク ラスター」を選択する

4. 移行ジョブのウィザードが開始します。「① インベントリサーバー(Inventry server、より適切な訳は "サーバーのインベントリ")」の「前提条件の確認」ページで前提条件の内容を確認し、「次へ」をクリ ックします。なお、移行ジョブはウィザードの左下にある「保存して終了する」をクリックことで、途 中までの状態を保存し、後で再開することができます(画面 2-13)。移行ジョブの再開時には、完了済 みフェーズ(インベントリ、転送、一括移行)をスキップして次のフェーズに進む、または前回のフェ ーズを再実行できます。



画面 2-13 「前提条件の確認」ページで「次へ」をクリックする

5. 「資格情報の入力」ページで、移行元のデバイスの資格情報としてドメイン管理者の資格情報(ドメイン名¥Administrator など)を入力し、「ジョブ設定」の「管理共有を含める」と「フェールオーバークラスターからの移行」の2つのチェックボックスをオフにした状態で「次へ」をクリックします(画面2-14)。

>	記憶域の移行サービス > <b>Mi</b>	igrateNAStoNASJob		
Q	1 インベントリサーバー	2 転送データ 3	新しいサーバーへ一括移行	■ イベント
-0	前提条件の確認	移行するデバ	イスの資格情報を入力 W集するときにこれらを使用します。	
<b></b>	資格情報の入力	ユーザー名	AD\administrator	
# 24	必要なツールをインストールする	パスワード		
=	デバイスの追加およびスキャン			
ч.		ジョフ設定	_	
<b>n</b> (n		管理共有を含める		
		行		ļ
	保存して終了する 戻る	次へ		

画面 2-14 ドメイン管理者の資格情報を入力する

- 「必要なツールをインストールする」ページで「次へ」をクリックします。移行元が Windows Server を実行するデバイスで非クラスター構成の場合、オーケスとレーターサーバーに追加のツールがインス トールされることはありません。クラスターからの移行の場合、ここで「フェールオーバークラスター 管理ツール(RSAT-Clustering-Mgmt)」の機能がインストールされます。
- 7. 「デバイスの追加およびスキャン」ページで「+デバイスの追加」をクリックし、「移行元デバイスの追

加」パネルでデバイスのコンピューター名を直接入力するか、Active Directory から検索して移行元デ バイスを追加します(画面 2-15)。

>	記憶域の移行サービス > M	igrateNAStoNASJob	移行元デバイスの	追加	
م •	1 インベントリ サーバー	2 転送データ	選択モード ○ デバイス名 ●	Active Directory の検索	
50	前提条件の確認	デバイスの追	名前 ①		
8	資格情報の入力	十 デバイスの追加			
III	必要なツールをインストールする	名前 个 レコードが見つかりませ,	検索対象 Windows Server		~
=	デバイスの追加およびスキャン		LANDISKZ		検索
ų.			1個の項目 1	個を選択中 🗙	
-			名前 个	種類	ログイン名
		フェーズの詳細	LANDISKZ.ad.example.jj	p computer	ad.example.jp\LANDI
<b>F</b>		•			
-	保存して終了する 戻る	次へ	追加 🔉 👎	マンセル	

画面 2-15 移行元デバイスを追加する

追加したデバイスを選択し、「i 検証」をクリックします。検証結果が「合格」となったら、「▷ スキャンの監視」をクリックします(画面 2-16)。検証結果が「合格」以外を報告した場合は、検証結果のリンクをクリックして問題を確認し、問題を取り除いてから再検証してください。

-0	前提条件の確認	デバイスの追	加およびスキャン	
8	資格情報の入力	十 デバイスの追加		1個の項目 🖒 検索
	必要なツールをインストールする	名前 个	— デバイスの削除	7 失敗 失敗 開始時 終了時 状態
24		landiskz.ad.example.jp	≣ 検証	0 0 不明
=	デバイスの追加およびスキャン		▶ スキャンの開始	
-				
.0	前提条件の確認	デバイスの追	加およびスキャン	
<b></b> 30	前提条件の確認 資格情報の入力	デバイスの追 + デバイスの追加	加およびスキャン …	1個の項目 🕐 検索
	前提条件の確認 資格情報の入力	デバイスの追 + デバイスの追加 <sup>名前 ↑</sup>	加およびスキャン … ー デバイスの削除	1 個の項目 🕐 検索 7 失敗 失敗 開始時 終了時 状態
	前提条件の確認 資格情報の入力 必要なツールをインストールする	デバイスの追 + デバイスの追加 <sup>名前 ↑</sup> Iandiskz.ad.example.jp	加およびスキャン … - デバイスの削除 這 検証	1個の項目 ・・・ 失敗… 失敗… 開始時… 終了時… 状態 0 0 不明

画面 2-16 追加したデバイスを「 注検証」し、「 ▷スキャンの開始」を実行する

 スキャンが完了するとページが更新されます。移行元デバイスの「状態」が「成功」となったことを確認します(画面 2-17)。また、移行元デバイスを選択して、インベントリされた共有、構成、ネットワ ークアダプター、ボリュームを確認します。最後に「次へ」をクリックして、次のステップ(転送フー ズ)へと進みます(画面 2-18)。

名前 个       構成       SMB       サ       フ       失敗       開始時       終了時       状態       検証         Iandiskz.ad.example.jp       成功       成功       2.23       28       0       0       2023/8/1       2023/8/1       ②       成功       ②       合権         フエーズの詳細: Iandiskz.ad.example.jp       ボリューム </th <th>+ デバイス</th> <th>スの追加 …</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>1</th> <th>個の項</th> <th></th> <th>C</th> <th>検索</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>Q</th> <th></th>	+ デバイス	スの追加 …				1	個の項		C	検索				Q	
Iandiskz.ad.example.jp       成功       成功       2.23       28       0       0       2023/8/1       2023/8/1       ②       成功       ②       合語         フェーズの詳細: Iandiskz.ad.example.jp	名前 个		構成	SMB	サ	フ	失敗	失敗	開	始時	終了時	状態	Ĕ.	検	taile in the second sec
フェーズの詳細: landiskz.ad.example.jp 共有 構成 ネットワークアダプター ボリューム 1 個の項目 ひ 検索 名前 ↑ パス 種類 サイズ ファイル 失敗した	landiskz.ad.ex	ample.jp	成功	成功	2.23	28	0	0	20	23/8/1	2023/8/1	0	成功	•	合格
<u>共有</u> 構成 ネットワークアダプター ボリューム 1 個の項目 ひ 検索 名前 ↑ パス 種類 サイズ ファイル 失敗した	フェーズ	の詳細: la	ndiskz.	ad.exam	ple.	jp									~
(株式)     (ホット・)     (ワーク・シック・シック・シック・シック・シック・シック・・・・・・・・・・・・・・	サカ 構	成 고까	、	ヮゟ゙ヿ゚ゟ゠	- 	117-	15								Â
1 個の項目     検索     ク       名前 个     パス     種類     サイズ     ファイル     失敗した     成功した     失敗した     状態       SMBShare     D:\Shares\     SMB     2.23 GB     28,102     0     1,075     0     ② 成功	<u>共</u> 旧 1曲	#UX 1521				9 <u>1</u> -1	4								-1
名前 个     パス     種類     サイズ     ファイル     失敗した     成功した     失敗した     状態 <u>SMBShare</u> D:\Shares\     SMB     2.23 GB     28,102     0     1,075     0          Ø 成功						1 4	国の項目	U Ü	1	検索			5	O	
SMBShare D:\Shares\ SMB 2.23 GB 28,102 0 1,075 0 🔮 成功	名前 个	パス	種類	サイズ		ファイル	/ 失	ミ敗した…	J	成功した…	失敗した	E	状態		
	SMBShare	D:\Shares\	SMB	2.23 GB		28,102	0	,		1,075	0		0	成功	

画面 2-17 スキャン結果を確認する

共有 構成	ネットワーク アタ	ブプター ボリュ	.— <i>L</i> ,		
コンピューター名 LANDISKZ		コンピューターのド> ad.example.jp	メイン名	コンピューター <u>の</u> なし	2代替名
ワークグループ名 なし		OS 製造元 Microsoft Corpor	ation	OS名 Microsoft Win Server 2012 R	dows Storage 2 Workgroup
共有 構成	ネットワークアダ	プター ボリュ	-Д		
名前 小	IP アドレス	IP サブネッ	1個の項目 🖒	検索	
Intel(R) 82574L Gigab	<u>oit</u> 192.168.10.203	255.255.255	5.0 192.16	58.10.1	]
共有 構成	ネットワークアダ	プター ボリュ	- <u>/</u> _		
		ź	2個の項目	検索	Q
名前 个	ファイル システム	合計サイズ	使用済みサイズ	圧縮済み	BitLocker が有効
C:	NTFS	97.7 GB	15.6 GB	false	false
D:	NTFS	1.72 TB	2.58 GB	false	false
次へ					

画面 2-18 移行元デバイスのインベントリを確認し、「次へ」をクリックする

続いて、ウィザードは移行手順のステップ2(転送フーズ)に進みます。

1. 移行ジョブのウィザードは「② 転送データ(Transfer data、より適切な訳は"データ転送")」に進みま す。最初の「資格情報の入力」ページで移行先デバイスの資格情報としてドメイン管理者の資格情報(ド メイン名¥Administrator など)を入力し、「次へ」をクリックします(画面 2-19)。

Windo	ows Admin Center   サーバー マネージ	ヤー ~		Microsoft	≻ ⊄ @ ?
orcs	<b>sv.ad.example.jp</b> 記憶域の移行サービス > Mi	grateNAStoNAS	Job		
ر •••	✔ インベントリ サーバー	2 転送データ	3 新しいち	ナーバーへ一括移行	
8	資格情報の入力	移行先のデ	バイスの資	格情報を入力	
	landiskz.ad.example.jp	ユーザー名		AD\administrator	
••• ••	設定の調整	パスワード			
	必要な機能をインストールする				
24	デバイスの検証				
=	転送の開始				
ъ.,					
8(8	保存して終了する 戻る	次へ 👆			

画面 2-19 ドメイン管理者の資格情報を入力する

2. 「<移行元のデバイス名>の移行先を指定してください」のページで、「移行先」として「既存のサーバーまたは VM を使用する」を選択し、「参照」をクリックして Active Directory から移行先デバイスを検索し、「追加」をクリックします (画面 2-20)。なお、移行先デバイスがワークグループ環境の場合は、テキストボックスにコンピューター名を直接入力してください。

Windo	ows Admin Center   サーバー マネージャ	?− ∨	📑 Microsoft	≻ ௴ @ ?
orc	sv.ad.example.jp			
>	記憶域の移行サービス > <b>Mi</b>	grateNAStoNASJob	移行先デバイスの選択	
0	🔗 インベントリ サーバー	2 転送データ 3 新し	検索対象	
00			Windows Server	$\sim$
	資格情報の入力	landiskz.ad.exampl	LANDISKZ-NEW	検索
-0	landiskz.ad.example.jp	このソースに対して、転送する: 用する Azure VM を作成します。	1個の項目 1個を選択中 🗙	
	設定の調整	移行先 ①	名前个種類	ログイン名
	必要な機能をインストールする	<ul> <li>(●) 既存のサーバーまたは VM 7</li> <li>用する</li> </ul>	LANDISKZ-NEW.ad.exam computer	ad.example.jp\LANDI
		◯ 新しい Azure VM を作成する		
*	デバイスの検証	○ landiskz.ad.example.jp から: イルを転送したい)		
=	転送の開始	T / //2 #ALC / AU		
τ.				*
8(8	保存して終了する 戻る	次へ	追加 🔉 キャンセル	

画面 2-20 移行先のデバイスを指定する

3. 移行先デバイスを指定したら「スキャン」をクリックします(画面 2-21)。「スキャン」ボタンは「参照」 ボタンのすぐ横にありますが、解像度が低いと見えないかもしれません。その場合は Tab キーを使用し て「スキャン」ボタンまで移動してください。

2 転送データ 3 新しいサー	パーへ一括移行		■ イベント			
このソースに対して、転送するファイ VM を作成します。	ルの移行先を指定してからスキャンします。ま	たは、移行先として	使用する Azure			
移行先 ①	移行先デバイス					
<ul> <li>既存のサーハーまには VM を使 用する</li> </ul>	landiskz-new.ad.example.jp	参照	スキャン			
○ 新しい Azure VM を作成する						
○ landiskz.ad.example.jp からファ イルを転送しない						
	移行先をスキャンしています					

画面 2-21 「スキャン」をクリックしてスキャンの完了を待つ

 スキャンが完了するとページが更新されるので、移行元デバイスのボリューム(ソースボリューム)と 移行先ボリュームのマップを確認し、移行する共有フォルダーが選択されていることを確認して、「次 へ」をクリックします(画面 2-22)。

記憶域の移行サービス > <b>Mi</b>	記憶域の移行サービス > MigrateNAStoNASJob								
✓ インベントリ サーバー	2 転送データ	3 新	しいサーバーへー	一括移行					イベント
資格情報の入力	各ソースオ	バリュームを	E <b>1</b> つの移行	先ボリュー	ムにマップ	する			
landiskz ad example in					1個の項目	Ö	検索		Q
in a second seco	移行元ボリュ	リソース フ	移行先ボリュ	リンク先ファ	利用可能な領	必要な領	域 4	Azure File Syn	ボリュームの
設定の調整	D:	NTFS	D: 🗸	NTFS	2.44 TB	2.23 GB	[	無効	
必要な機能をインストールする									
必要な機能をインストールする									
デバイスの検証	転送する共	有を選択す	3			_			
転送の開始					1個の項目	U i	検索		Q
	移行元の共有	パス	$\uparrow$	種類	t	ナイズ し		転送に含め	5
	SMBShare	D:\S	hares\SMBShare	SMB	2	.23 GB		🖌 含め	3
									¥
保存して終了する    戻る	次へ								

画面 2-22 ボリュームのマップと移行する共有を選択する

5. 「設定の調整」ページでローカルユーザーとグループの転送方法や、再試行回数などを必要に応じて調整し、「次へ」をクリックします(画面 2-23)。通常は、既定のまま進みます。既定では、「同じ名前の アカウントの名前を変更する」が選択されます。この設定では、移行元デバイスのすべてのローカルユ ーザーとグループが移行され、移行先に同じ名前のアカウントが見つかった場合、移行先デバイスの既 存のユーザーまたはグループは新しい名前に変更されます。ただし、組み込みのユーザーおよびグルー プ(Administrator や Administrators)は、移行元と移行先デバイスで同じ名前を使用します。

ر ۱۱۱۱	ーパーゼ ビインベント 🛇	2 転送データ ③ 新しいサーバーへ一括移行	■ イベント
	資格情報の入力	転送の設定を調整	Î
.0	landiskz.ad.example.jp	✓ 上書きされるフォルダーをバックアップする (Azure File Sync が有効化された ① 共有はバックアップされません)	
8	設定の調整	転送の検証の上書き         ①	
8	必要な機能をインストールする	送信ファイルの検証方法 (チェックサム)	I
*	デバイスの検証	なし ~	
=	転送の開始	最長期間 (分)	
		10080	
	深い5/#+0 a 3 土	移行ユーザーとグループ	
	具格情報の入力	● 同じ名前のアカウントの名前を変更する	
	landiskz.ad.example.jp	○ 同じ名前のアカウントを再使用する	
••• •••	設定の調整	<ul> <li>() ユーザーとグルーフを転送しない(ドメイン コントローラーまたは DFS レブリケーションのシーディング時には必要)</li> </ul>	
	必要な機能をインストールする	再試行	
24	デバイスの検証	転送が正常でない場合、ファイルの転送の再試行を何回行いますか。	
-	転送の開始	回数の上限	
١.	Transmis V (171) Aird	3	
		再試行と再試行の間隔 (秒)	
		60	Į.
	保存して終了する 戻る	次へ <sub>.</sub>	

画面 2-23 「設定の調整」ページでは、通常、既定値を受け入れ「次へ」をクリックする

6. 「必要な機能をインストールする」ページで、移行先デバイスに必要な機能がインストールされるまで しばらく待ち、ストレージ移行サービスプロキシ(SMS-Proxy)のインストールが完了したことを確認 したら、「次へ」をクリックします(画面 2-24)。インストールを開始するために資格情報の入力が求め られた場合は、ドメイン管理者(ドメイン名¥Administrator など)の資格情報を入力してください。

Windo	Vindows Admin Center   サーパーマネージャー 🗸 Microsoft								
orc: >	sv.ad.example.jp 記憶域の移行サービス > Mi	grateNAStoNAS	SJob						
0	✓ インベントリ サーバー	2 転送データ	3 新しいサーバーへ	一括移行			イベント	~	
•	資格情報の入力	必要な機能	をインストールマ	する					
••	landiskz.ad.example.jp サーバー名 移行先サーバーに機能をインストールしている間、しばらくお待ちくださ								
	設定の調整	<ul> <li>V landiskz-new.</li> </ul>	ad.example.jp	⊘ Completed					
24	必要な機能をインストールする	SMS-Proxy	1	⊘ Completed					
=	デバイスの検証								
t,	転送の開始								
<b>8</b> (8									
6									
F	保存して終了する 戻る	次へ 👆							

画面 2-24 移行先デバイスにストレージ移行サービスプロキシ(SMS-Proxy)がインストールされる

#### △ 資格情報の暗号化エラー

移行先デバイスへの必要な機能のインストール時に資格情報の入力が求められたとき、正しい資格情報 を入力しているのにも関わらず、以下の画面 2-25 のようなエラーが表示される場合は、「キャンセル」 をクリックして資格情報の入力パネルを閉じ、ウィザードの左下にある「保存して終了する」をクリッ クしてウィザードを終了します。その後、ブラウザーを再起動して、「サーバーマネージャー」に移行 先デバイスを登録し、ドメイン管理者の資格情報を使用してエラーなしで接続できることを確認してく ださい。接続できることを確認したら、オーケストレーターサーバーの「記憶域の移行サービス」ツー ルから移行ジョブを再開します。

	資格情報の入力	必要な機能を	AD\administrator
	landiskz.ad.example.jp	移行先サーバー	
-0	設定の調整	9-//	パスワード*
8		landiskz-nev	••••••
	必要な機能をインストールする		
	デバイスの検証		これらの資格情報をすべての接続で使用します。
-			
	転送の開始		1 指定されたデータの暗号化を解除できませんでした。データは古い ハーフまたけ不明なハーフで暗号化されました・OAED パディングを
τ.			デコード中にエラーが発生しました。
ain.			
-0		17 A	4±/
F			続けーキャンセル
画面	2-25 このようなエラーカ	が表示された場合	は、「保存して終了する」をクリックしてウィザードの
現在	までの状態を保存して、問	題に対処する	

「デバイスの検証」ページで「 注検証」をクリックします。検証結果が「合格」となれば問題ありませんん。合格以外の結果(警告)が報告された場合は、その内容を確認して、問題を取り除きます(画面 2-26)。

Wind	ows Admin Center   サーバー マネ	ージャー 〜	- Microsoft	> Q @
orc	sv.ad.example.jp 記憶域の移行サービス >	MigrateNAStoNASJob		設定
0	● インベントリサーバー	移行のテスト結果 landiskz.ad.example.jp → landiskz-new.ad.exar	nple.jp	∃ イベント
••	資格情報の入力	移行先プロキシは登録されています。 ▲ 警告:移行先プロキシが見つかりませんでした	Ę.	
×	設定の調整	移行先は存在します。		1017
24	必要な機能をインストールする -	送り先サーバーが送り元と同じサーバーでは 📀 合格	ありません。	検証 ▲ 整告
= t,	<ul> <li>デバイスの検証</li> <li>転送の開始</li> </ul>	SMB 接続は正常に機能します。 📀 合格		

画面 2-26 「 ┊ 検証」をクリックしてその結果を確認する

前の手順6で転送先デバイスにストレージ移行サービスプロキシ(SMS-Proxy)がインストールされま すが、特定の状況下では登録に失敗し、「警告:移行先プロキシが見つかりませんでした」という検証エ ラーが報告されます。この問題を解決するには、オーケストレーターサーバーの PowerShell で以下の コマンドラインを実行し(画面 2-27)、もう一度「這検証」をクリックします。ワークグループ構成の 場合はこの検証エラーを解消する方法がないため、無視して「転送の開始」へと進んでください(ただ し、オーケストレーターサーバーの SMS-Proxy が代わりに使用されれるため、転送は低速になります)。

PS C:¥> <b>Register-SMSPr</b>	oxy -ComputerName	<移行先デバイスの FQDN> -F	Force
資格情報の入力	移行元と移行先の	デバイスの検証	
landiskz.ad.example.jp	≔ 検証		
設定の調整	1個の項目 🖒 検	索 <u> </u>	
	移行元 个	移行先	検証
心安な機能をインストールする	landiskz.ad.example.jp	landiskz-new.ad.example.jp	🕑 合格
デバイスの検証	谷理老・Windows PowerShell		
転送の開始 PS PS	C:¥> Register-SMSProxy -Com C:¥> _	outerName landiskz-new.ad.example.	jp -Force

画面 2-27 「警告:移行先プロキシが見つかりませんでした」検証エラーを回避する

 デバイスの検証が合格したら「次へ」をクリックし、「転送の開始」ページで「▷ 転送の開始」をクリ ックします(画面 2-28)。

>	記憶域の移行サービス > Mi	grateNAStoNASJob	
م	👽 インベントリ サーバー	2 転送データ ③ 新しいサーバーへー括移行	イベント
-0	資格情報の入力	転送の開始	Î
⊗ ■	landiskz.ad.example.jp	▷ 転送の開始	
24	設定の調整	1個の項目 ○ 検索 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
=	必要な機能をインストールする	landiskz.ad.e 28,102 0 0 landiskz-new	
ι.	デバイスの検証		
<b>8</b> )8	転送の開始		
		フェーズの詳細	
F			
-	保存して終了する 戻る	次へ	

画面 2-28 「▷ 転送の開始」をクリックしてデータ転送を開始する

9. データ転送が開始され、「フェーズの詳細」ペインにデータ転送の進行状況が表示されます(画面 2-29)。



画面 2-29 データ転送の進行状況

10. データ転送が完了したら、状態が「成功」したことを確認します(画面 2-30)。他の状態が報告された 場合は、「フェーズの詳細」の「転送の詳細」タブを表示し、「↓ 転送ログ」や「↓ エラーログのみ」 をクリックして、ログファイル(CSV 形式)をダウンロードし、エラーの内容を確認します。ファイル のロックなどでスキップされたファイルがある場合は、ウィザードを再開して「▷ 転送の差異」を実行 して、差分を転送します。ストレージ移行サービスは転送済みデータとフォルダーを認識するため、同 じ移行ジョブで同じフォルダーが複数回コピーされることはありません。なお、スキップされたファイ ルが少数の場合は、カットオーバー後にデバイス間で手動でコピーすることもできます。

-	転送データ     3 新しいサーバーへ一括移行     4	イベン	F
	<ul> <li>● 転送の方用公</li> <li>● 転送の差異</li> <li>1個の項目</li> <li>● 転送の差異</li> <li>1個の項目</li> <li>● 較次</li> <li>※行元 个</li> <li>※行元 へ</li> <li>※行元 へ</li> <li>※ 転送の詳細</li> <li>SMB</li> <li>○ 一「「「」」」」</li> <li>○ 一」</li> <li>○ 二」</li> <li>○ 一」</li> <li>○ 二」</li> <li>○ 二</li> <li>○ 二</li></ul>	٩	]
しする	フエーズの詳細 単 □ □ = □ ダウンロード 進行状況 転送の詳細 SMB 774ル ホーム 共有 表示 ← → × ↑ ↓ > PC > ダウンロード	ٽ ×	~
	<ul> <li>↓ 転送ログ ↓ エラーログの∂</li> <li>客行元 ↑</li> <li>landiskz.ad.example.jp</li> <li>2.2</li> <li>▲ MigrateNAStoNASJob_landiskz.ad.example.jp_Iラ2023-08-15T04_58_20.271Z.csv</li> <li>▲ MigrateNAStoNASJob_landiskz.ad.example.jp_2023-08-15T04_57_57.980Z.csv</li> </ul>	サイズ 0 KB 22,064 KB	更新 2023, 2023,
戻る	次へ		

- 画面 2-30 転送結果とログを確認する(この例ではエラーログが 0KB であるため、エラーなし)
- 11. ステップ 2 のデータ転送が完了したら、「次へ」をクリックして次のステップ(一括移行フェーズ)へ と進みます。

#### 2.8 カットオーバーして移行先サーバーへの移行を完了する

データ転送が完了したら、新しいデバイスにカットオーバー(一括移行)して、IP アドレスとコンピュータ ー名を切り替えます。

- 移行ジョブのウィザードの「③ 新しいサーバーへ一括移行 (Cut over to the new servers)」に進み ます。ウィザードを中断した場合は、Windows Admin Center の「サーバーマネージャー」でオーケ ストレーターサーバーに接続し、「記憶域の移行サービス」ツールを開き、移行ジョブを再開して「③ 新 しいサーバーへ一括移行」まで進みます。
- 2. 「資格情報の入力」ページでは「次へ」をクリックし、前回使用された保存されている資格情報(ドメイン管理者の資格情報)を再利用します(画面 2-31)。保存されている資格情報が利用できない場合は(ウィザードを中断後に再開した場合など)、「新しい資格情報」を選択して、ドメイン管理者(ドメイン名¥Administrator など)の資格情報を入力してください。

Windo	ows Admin Center   サーバー マネージ	ヤー ~		Hicrosoft		≻	P	٢	?
orc:	sv.ad.example.jp 記憶域の移行サービス > M	igrateNAStoNA	SJob						
ر انا	🔗 インベントリ サーバー	✓ 転送データ	3 新しいサ	ーバーへ一括移行	_		E 11	ベント	
	資格情報の入力	移行先の表	デバイスの資	格情報を入力					Î
	landiskz.ad.example.jp	最後に資格情報が ● 保存されて	いる資格情報	//15 9:38:15 )新しい資格情報					
×	設定の調整	移行元のユーザー	名						
	デバイスの検証	AD\administra	ator						
24	一括移行の開始	移行元のパスワー	۰۴		]				
-									
10		移行先の	デバイスの資	格情報を入力					¥
6	保存して終了する 戻る	次へ 🁆							

画面 2-31 移行ジョブの「③ 新しいサーバーへ一括移行」を開始する

 「<移行元デバイス>から<移行先デバイス>への一括移行を構成」ページで、「このデバイスを含める」、 「ネットワーク設定を移行する」、「すべてのネットワークアダプターが移行されました」の3つのチェ ックボックスが選択されていることを確認し、移行元デバイスのネットワークアダプターの現在の設定 を、移行先デバイスのどのネットワークアダプターに移行するか選択します(画面 2-32)。

また、移行元デバイスのネットワークアダプターにカットオーバー後に割り当てる IP アドレスを DHCP (推奨)または静的に設定します。静的な IP アドレスを設定する場合は、未使用の IP アドレスを指定 してください。DHCP と静的 IP アドレスのいずれの場合でも、自動または固定割り当てされた DNS サ ーバーの設定は変更されません。さらに、「一括移行後に、移行元デバイスの名前を変更」で「ランダム に生成された名前を使用」または「新しい名前の選択」を選択し、「新しい名前の選択」を選択した場合 は、カットオーバー後に移行元デバイスに設定するコンピューター名を入力し、「次へ」をクリックしま す。

資格情報の入力	landiskz.ad.example.jp から land	diskz-new.ad.example.jp への一括移行を構成			
landiskz.ad.example.jp	このデバイスを含める 🗸 ネットワー	−ク設定を移行する マインクアダプターが移行されました			
役定の調整	移行元のネットワーク アダプター	移行先のネットワーク アダプター			
デバイスの検証	イーサネット	移行先のネットワーク アダプター			
一括移行の開始	Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection IP 情報:	→ イーサネット			
	192.168.10.203/255.255.255.0 静的に割り当てられた IP アドレス DHCP の使用	/ Intel(R) I210 Gigabit Network Connection #2 IP 情報: 192.168.10.204/255.255.255.0			
	一括移行後に、移行元のデバイスの名	名前を変更			
	○ ランダムに生成された名前を使用				
	● 新しい名前の選択				
	新しい移行元コンピューターの名前 LANDISKZ-O	OLD			

画面 2-32 移行元デバイスと移行先デバイスのネットワークとコンピューター名を確認、設定する

永 移行元デバイスと移行先デバイスの IP アドレスの入れ替えは不可
カットオーバー時に移行元デバイスのネットワークに静的 IP アドレスを設定する場合、移行先デバイスで使用していた IP アドレスを指定すると、一括移行の開始後に「38% ソースコンピューターのネットワークインターフェイスのマップ」でハングします(IP アドレスが 2 つのデバイスで重複した状態になります)。この状態でハングしてしまった場合は、オーケストレーターサーバーの PowerShell で以下のコマンドラインを実行し、移行ジョブのフェーズを「一括移行」から「転送」に戻しします。その後、移行元デバイスのネットワーク設定やドメイン参加設定を元の状態に戻し、一括移行を再試行します。

#### PS C:¥> Remove-SMSCutover -Name <移行ジョブの名前>

- 「設定の調整」ページでは、「AD 認証情報を入力する」で「保存されている資格情報」を選択し、「次 へ」をクリックします。
- 「デバイスの検証」ページで「
   検証」をクリックし、検証結果が「合格」と表示されることを確認したら、「次へ」をクリックします(画面 2-33)。それ以外の検証結果が報告された場合は、検証結果のリンクをクリックして、問題を確認し、取り除いてから再度、「
   検証」を実行してください。

-パーゼ ビインベント	🗸 転送データ	3 新しいサーバー	~一括移行		1ベント	
資格情報の入力	移行元と移行	「先のデバイス	の検証			
landiskz.ad.example.jp	≔ 検証					î
設定の調整	1個の項目	◇検索	٩			- 1
デバイスの検証	移行元デバイスの元	移行元デバイスの新	移行先デバイスの元…	移行先デバイスの新	検証	
一括移行の開始	landiskz.ad.example.jp	LANDISKZ-OLD	landiskz-new.ad.exam	landiskz.ad.example.jp	✓ <u>合格</u>	
	一括移行の説 -括巻行がタイムアウト 2880 分					
保存して終了する 戻る	次へ					

画面 2-33 「 注検証」をクリックして、検証結果が「合格」となることを確認する

6. 「一括移行の開始」ページで「▷ 一括移行の開始」をクリックします(画面 2-34)。一括移行を開始すると、移行元デバイス(ソースコンピューター)と移行先デバイスが何度か再起動されます(画面 2-35)。開始する前に、移行元および移行先デバイスにローカルまたはリモートデスクトップ接続経由でログオン中のユーザーがある場合はログオフさせてください。移行中、デバイスの再起動や Active Directoryおよび DNS の情報更新とレプリケーションの影響で、クライアントアクセスは一時的に利用できなくなります。

✔ インベントリ サーバー	< 転送データ	3 新しいサー	バーヘー括移行			E 1	ベント
資格情報の入力	新しいサー	バーへ一括利	多行				
landiskz.ad.example.jp	▷ 一括移行の開め	台	1個0	の項目 🖒	検索		Q
設定の調整	移行元デバイス 个 landiskz.ad.exampl	移行元デバイス ( landiskz.ad.exampl	移行先デバイス landiskz-new.ad.ex	移行先デバイス (. landiskz-new.ad.e:	開始時刻 x	終了時刻	状態 未開始
デバイスの検証							
一括移行の開始							

画面 2-34 「▷ 一括移行の開始」をクリックして、新しいデバイスにネットワークとコンピューター 名を移行する

🔷 転送データ	3 新しい	\サーバーへ一括	移行					┋ イベント
新しいサー	-バーへー	括移行						
▷ 一括移行の開	制始 🗌 一括	移行の停止		1	個の項目	Ö	検索	٩
移行元デバイ…	移行元デバイ	移行先デバイ	移行先デバイ…	開始時刻	終了時刻		状態	
landiskz.ad.exa	landiskz.ad.exa	landiskz-new.a	landiskz-new.a	2023/8/15 14:.			33% ソース コンピュー	ーターを再起動しています

画面 2-35 一括移行(カットオーバー)の実行中、移行元と移行先デバイスは何度か再起動される

7. 一括移行フェーズの状態が「成功」したことを確認し、「完了」をクリックします(画面 2-36)。

م	✓ インベントリ サーバー	転送データ	3 新し	いサーバーへー	括移行				イベント
	資格情報の入力	新しいサー	バーへ-	括移行					
•	landiskz.ad.example.jp	▷ 一括移行の開	始 □ −∄	移行の停止	▷ 再開				
00	設定の調整	1個の項目	🕐 検索		Q				
8	デバイスの検証	移行元デバイ… 利 landiskz.ad.exa L	修行元デバイ… LANDISKZ-OLD	移行先デバイ landiskz-new.a	移行先デバイ landiskz.ad.exa	開始時刻 2023/8/15	終了時刻 2023/8/15	状態	Azure File S AFS のセ
111 24	一括移行の開始								
=									
ч.									
#(#	保存して終了する 戻る	完了							

画面 2-36 一括移行フェーズの完了

 これで移行元デバイスのコンピューター名と IP アドレスは、移行先デバイスに切り替わりました。移 行先デバイスにリモートデスクトップ接続して、コンピューター名やネットワークの設定、共有、デー タ、およびアクセス制御リスト(ACL)やその他の属性(NTFS 圧縮や暗号化)、ローカルユーザーとグ ループが移行されていることを確認します(画面 2-37)。

😼 landiskz - リモート デスクトップ接続		- o x
<ul> <li>Iandiskz - リモートデスクトップ接続</li> <li>設定の検索</li> <li>エンビューターの管理</li> <li>フィ/ル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルブ(H)</li> <li>コンビューターの管理(D-カル)</li> <li>マンジェーターの管理(D-カル)</li> <li>コンビューターの管理(D-カル)</li> <li>マンジェーターの管理(D-カル)</li> <li>マンジェーターの</li> <l< th=""><th>バージョン情報 HDL-Z19SI3A シリーム デバイスを landiskz プロセッサ intel(R) Core(TM) i3-8100T CPU @ 3.10GHz フルネーム 説明 コンビューター/ドメインの管理用 (ビ ユーザー マイル ホーム 共有 表示 local local iocal</th><th>ー     ー     ー     ×       ●     ●     ●     ●       ●&lt;</th></l<></ul>	バージョン情報 HDL-Z19SI3A シリーム デバイスを landiskz プロセッサ intel(R) Core(TM) i3-8100T CPU @ 3.10GHz フルネーム 説明 コンビューター/ドメインの管理用 (ビ ユーザー マイル ホーム 共有 表示 local local iocal	ー     ー     ー     ×       ●     ●     ●     ●       ●<
Ħ	■ IoT2019IoT3CotageWP_StartNAS_ ■ IoT2019forStorageWP_StartNAS_ ■ IoT2019forStorageWP1 x1 docs	特殊なアクセス許可
>> <> < < < < < < (① /(−ジョン情報	Internationagewr Lythold	<ul> <li>特殊なアクセス許可または詳細設定を表示する</li> <li>には、【詳細設定】をクリックします。</li> <li>a</li> <li>OK</li> <li>キャンセル</li> <li>適用(A)</li> </ul>
	■ 請求書テンプレート.docx	2023/08/10 15:44 Office / 7/7 XML 45 KB

画面 2-37 移行先デバイスに設定とデータが移行されたことを確認する

クライアントからアクセスする際のネットワークパス(UNC 名やネットワークドライブの割り当て) は、何も設定を変更しなくても、新しい移行先デバイスに対して有効になります。また、移行元デバイ スは、カットオーバー後の名前(ランダムな名前または指定した名前)で引き続きアクセスすることが できます。(画面 2-38)。

	📕   🛃 🗖 🖛   Documents						—	×
	ファイル ホーム 共有	表示						~ ?
	← → · ↑      · ネット	フーク > LANDISKZ > SMBShare	e > Documents	5 V				
	🛃 ካለጫስ ጀክታን	名前 ^	更新日時		種類サ	イズ		
M	■ デスクトップ ★	Develop ITS	2023/08/10 2023/08/10	15:14 15:14	ファイル フォルダー ファイル フォルダー			
	F#1X7F	Managements	2023/08/10	15:16	ファイル フォルター			
	■ ピクチャ ★	Sales1G	2023/08/10	15:59	ファイル フォルター ファイル フォルダー			
	EV71	Jaieszu	2023/00/10	15.10	2711024102			
М	ト ミュージック							
	OneDrive - Personal	-						
	PC	📙   🛃 🚽 🚽 Document	5					
	💣 ネットワーク	ファイル ホーム 共有	表示					
		수 🔸 🛧 📙 > 추기	トワーク > LANDISKZ-old >	SMBShare →	Documents 🗸 🗸	ō		検索
		▲ カイッカ マクセフ	名前		更新日時		種類	サイズ
		= = 7775v2	Develop		2023/08/10 15:14		ファイル フォルダー	
	5 個の項目 1 個の項目を選択		ITS		2023/08/10 15:14		ファイル フォルダー	
			Managements		2023/08/10 15:16		ファイル フォルダー	
			Sales1G		2023/08/10 15:59		ファイル フォルダー	
			Sales2G		2023/08/10 15:16		ファイル フォルター	
		↓ 51-500						
		5 個の項目 🕺 1 個の項目を選	択					
	▶ 検索するには、ここ	に入力します	🛓 🛱 💽 🖡					

画面 2-38 新しいデバイスの共有へのクライアントからのアクセスは、古いデバイスで使用していたパ スをそのまま使用できる。古いデバイスが撤去されるまでは、古いデバイスの共有へのアクセスも可能

#### ( 〕 手動でカットオーバーする

移行ジョブの新しいデバイスへのカットオバー(一括移行)が何らかのエラーで成功しない場合でも、 移行ジョブのデータ転送まで進んでいる場合は、移行ジョブを削除して、以下の手順を手動で行うこと で、新しいデバイスに切り替えることができます。ただし、この場合、移行元デバイスのコンピュータ ーアカウントのセキュリティ設定の一部や、ローカルユーザーとグループの設定は移行されません。

- 移行元デバイスをワークグループ構成にして、ドメインから切り離す(要再起動)。
- 移行元デバイスのコンピューター名と IP アドレスをカットオーバー後の値に変更する(要再起動)。
- 移行元デバイスをドメインに参加させる(要再起動)。
- 移行先デバイスのコンピューター名と IP アドレスを移行元デバイスの元の値に変更する(要再起動)。

, 移行後に必要な作業

ĺĺ

NAS デバイスを移行した後、次の作業を行う必要があります。

● 移行されたローカルユーザーの有効化とパスワードの再設定

ローカルユーザーとグループを新しいデバイスに移行した場合、移行されたローカルユーザーの アカウント (Administrator など組み込みのアカウントは除く) は移行先で無効にされ、複雑でラ ンダムな 127 文字のパスワードが割り当てられます。ローカルユーザーのアカウントを引き続き 使用するには、移行後にアカウントを有効にして新しいパスワードを割り当てる必要があります (画面 2-39)。Active Directory ドメインのアカウントとグループには影響しません。



画面 2-39 移行されたローカルユーザーにはランダムなパスワードが設定され、無効化される

● 移行元 NAS デバイスの撤去

移行元の NAS デバイスは、別のコンピューター名と別の IP アドレスで引き続き稼働し、データを 保持しています。ファイルのロックなどで移行に失敗したファイルがある場合は、移行元の NAS デバイスから個別に移行先の NAS デバイスにメディアまたはネットワーク経由で手動でコピーで きます。

すべての移行が完了したことを確認できた場合は、NAS デバイスをシャットダウンして電源をオフにし、ネットワークから切断して、その後、撤去します。なお、万が一、移行元のデータが必要になった場合に備えて、完全な撤去までにはある程度の期間を考慮することをお勧めします。

移行完了後は、Windows Admin Center のオーケストレーターサーバーから移行ジョブを削除す ることができます(画面 2-40)。

Vindo	ws Admin Center   サーノ	(ーマネージ	$r - \checkmark$		Microsoft		>_ (
orcs	v.ad.example.jp						
>	十 新しいジョブ ー	- 選択したもの	のを削除		1個の項目	○ 検索	
	✓ 名前 个	状態	フェーズ	前回の実行	作成日時	作成者	ソース
ά <b>ί</b>	✓ <u>MigrateNAStoNASJob</u>	成功	任移仁	2022/0/15 16:02:14	2022/0/15 16:01:52	AD\Administrator	Windo
-C -		È	ショブの削除 <b>: M</b>	ligrateNAStoNA	SJob		
•		ジ	ョブを削除すると元に厚	ますことはできません。M	igrateNAStoNASJob		
۰¢		を	削除しますか?				
<b></b>							
11			ジョブの削除 キャ	ンセル			
						_	



● 移行先の NAS デバイスからの機能の削除

移行先の NAS デバイスには、オーケストレーターサーバーによりストレージ移行サービスプロキシ (Storage Migration Service Proxy、SMS-Proxy)のサーバーの機能がインストールされます。 移行完了後は、Windows Admin Center の「サーバーマネージャー」の「役割と機能」ツールを 使用して、またはリモートデスクトップ接続して「サーバーマネージャー」から開始する「役割と 機能の削除」ウィザードを使用して、この機能を削除することができます(画面 2-41)。このサー バーの機能の削除には、OS の再起動が必要です。

🔩 landiskz - リモート デスクトップ接続						-	
🏊 サーバー マネージャー			- 0	×			
● ● - ガーバー マ	?ネージャー・ ら	▶ 役割と機能の削除ウィザード			-		×
Ⅲ ダッシュボード	サーバー マネージャー クイック スタート(Q)	機能の削除			landiskz.	対象サ <del>-</del> .ad.example	/î <del>-</del> e.jp
■ ローカル サーバー ■■ すべてのサーバー ■■ ファイル サービスと記憶域サ ▷ ➡ 印刷サービス		開始する前に	選択したサーバーにインストールされている機能を削除するには、対応する5	はしたサーバーにインストールされている機能を削除するには、対応するチェック ボックスをオフにします。			
			wmile         Shump サービス(インストールされていません)         Storage Migration Service (インストールされていません)         Storage Migration Service (インストールされていません)         Webystem Data Archiver         ダ System Insighte         Telnet Client(インストールされていません)	ደረማ Service to run inventory, transfer and cutover for storage migration.			and

画面 2-41 移行先デバイスからのストレージ移行サービスプロキシの削除

● 移行先の NAS デバイスの証明書の確認

Active Directory 証明書サービスなどで発行された証明書や自己署名証明書を使用している場合 (IISの Web サイトやゲートウェイモードの Windows Admin Center の TLS 証明書、リモート デスクトップ接続認証用のサーバー証明書など)、移行先のコンピューター名の変更されても、既 存の証明書が自動的に変更されたり、再発行されることはありません。そのため、既存の証明書に は、カットオーバー前のコンピューター名が含まれている場合があります。「証明書」スナップイ ン (Certlm.msc) やアプリケーションの管理ツールを使用して、使用されている既存の証明書を 調べ、必要に応じて新しい証明書を発行して再設定してください。

例えば、NAS デバイスでゲートウェイサーバーモードの Windows Admin Center を自己署名証 明書を使用してインストールしていた場合は、「プログラムのアンインストールまたは変更」 (appwiz.cpl) から「変更」を実行し、自己署名証明書を再生成する必要があります(画面 2-41、 画面 2-42)。Active Directory 証明書サービスの証明書を使用していた場合は、新しい FQDN に 対して証明書を再発行し、証明書を入れ替えます。



## 著者紹介

山内 和朗(やまうち かずお)

#### 略歴

フリーランスのテクニカルライター。大手 SIer のシステムエンジニア、IT 専門誌の編集者、地方の中 堅企業のシステム管理者を経て、2008 年にフリーランスに。「山市良」の筆名で IT 専門誌や IT 系 Web メディアへの寄稿、IT ベンダーの Web コンテンツの制作、技術文書(ホワイトペーパー)の執筆、 Windows 系技術書の執筆や翻訳を行う。2008 から現在まで Microsoft MVP Award を毎年受賞。岩 手県花巻市在住。

#### 近著

『インサイド Windows 第7版下』(訳書、日経 BP 社、2022年)

『Windows 版 Docker & Windows コンテナー テクノロジ入門』(日経 BP 社、2020 年)

『Windows Server 2016 テクノロジ入門 改訂新版』(日経 BP 社、2019 年)

『Windows トラブル解決コマンド&テクニック集』(日経 BP 社、2018 年)

『インサイド Windows 第7版上』(訳書、日経 BP 社、2018年)

『Windows Sysinternals 徹底解説 改訂新版』(訳書、日経 BP 社、2017 年)

#### ブログ

山市良のえぬなんとかわーるど 働 https://yamanxworld.blogspot.com/